

平成 16 年度 社団法人音楽電子事業協会 事業報告

(理事会、運営委員会)

(平成 16 年 4 月 1 日から平成 17 年 3 月 31 日まで)

(1) 理事会の開催

1 平成 16 年 5 月 11 日、平成 16 年度 第 1 回理事会

- 社団法人音楽電子事業協会「第 8 回通常総会議案書」の承認
- 平成 15 年度 収支決算及び監査報告の審議、承認
- 平成 16 年度 収支予算修正案の審議、承認
- 社団法人音楽電子事業協会の平成 16 年度新任理事案の承認
- 平成 16 年度 専門会委員長及び事務局体制の承認

2 平成 17 年 3 月 23 日、平成 16 年度 第 2 回理事会

- 平成 16 年度 事業報告案及び収支決算見込案の審議
- 平成 17 年度 事業計画案及び事業予算案の審議
- 社団法人音楽電子事業協会内部規定変更及び追加の承認
- 事務局職員定年延長の承認
- 第 9 回通常総会の開催及び付議事項の承認

3 書面審議

- 5 月 24 日 株式会社アコ - スティック社の入会が審議・承認された
- 8 月 18 日 EMC 電子関連専門委員会への参加が審議・承認された

(2) 運営委員会の開催

平成 16 年度第 1 回運営委員会 開催 (平成 17 年 2 月 17 日)

- 平成 16 年度事業報告案が各委員から報告、検討された
- 平成 16 年度収支決算、着地見込み案を事務局から提案、検討された。
- 平成 17 年度事業計画案 (委員会別) が各委員会から提案され、検討された。
- 平成 17 年度事業計画案に基づいて平成 17 年度収支予算案を作成、検討された。
これをもって理事会、総会に提案し審議を乞うこととした。
- 平成 17 年度第 1 回理事会、及び総会の予定が案内された。
- 平成 17 年度事務局体制は、16 年度から継続されることが承認された。

平成 16 年度 社団法人音楽電子事業協会 事業報告

(専門委員会)

(平成 16 年 4 月 1 日から平成 17 年 3 月 31 日まで)

(1) 製品安全・環境委員会

外部団体への参加形態を検討し、事業説明会、講習会を企画し実行した。特に専門 2 分野、安全と環境の夫々に照準を当て外部講師による専門セミナーを実施した。更に、委員会全体を対象とした講演会を企画し、楽器全般に関する講義、化学物質分析装置の製造メーカーを訪問し、見学と合わせて環境規制動向についての講義を受けた。

又、安全規格面では、C S A の講師を招き最新情報の講義を受けた。安全規格分野では JEITA/EMC 委員会に参加、環境問題研究部会ではグリーン調達調査共通化協議会に入会した。

(2) M I D I 規格委員会

幹事会を 5 回開催、M M A スタッフを招いて、日本での合同会議を開催し両者が連携、協力して Mobile 関連の新たな規格をまとめた。

また、R T G - W G を結成し新たなインターネット上での転送をテーマとして検討を開始した。更に例年通り、1 月には N A M M ツアーを企画し、会員の参加を得て実施した。同時に現地で開催された M M A / A M E I 合同会議には A M E I から複数回の参加者が出席し、熱心に議論された。また、M M A の総会にも参加し、直接現地 M M A スタッフの議論・説明に傾聴した。

(3) 著作権・ソフト委員会

本委員会の中では、インターネット・モバイル部会、カラオケ部会、ソフト規格部会はそれぞれ活発に活動した。

委員会定例会を計 11 回開催し毎回多くの参加者により、新たな各種のテーマについて熱心な議論がなされた。

- 文化庁に対して、「著作権法改正に関する要望書」、並びに「著作権等管理事業法の施行状況に関する意見」を、委員会内部で集約し提出し、同時に経済産業省にもその旨を報告した。
- 韓国高麗音楽出版協会(KMPA)会長、黄仁瑞氏との交流会を NMRC・MCF と共同で開催した。

1. インターネットモバイル部会

JASRAC の 12 節の特例の独立した規格化を検討した。ストリーミング使用料、その按分方式、着信メロディーの使用料体系、着メロでのメドレー利用に関する協議等々多くのテーマについて進展があった。

2. カラオケ部会

対 JASRAC, 対ダイキサウンドとの課題の協議をした。

3. ソフト規格部会

D M N - W G を新たに立ち上げ、インタラクティブ配信に於ける演奏データの可視的利用に関する提案書を JASRAC に提出した。

また、G C P - W G も新たにスタートし、楽器に内臓されるコンテンツ等の

不正使用に対する実態を共有し、その保護に関連する諸テーマの検討を開始した。これらはいづれも次年度に継続される。

平成 16 年度 著作権・ソフト委員会定例会実施内容

日 時	主たるテーマ	セミナー他
4月15日 13:30 ~14:30	1、JASRAC へ「“ 附則第 14 節その他規程 ” に関する内容のものについて白紙撤回を要求する協議の申し入れ」 2、カラオケ部会体制変更 3、インターネット・モバイル部会発足	
5月13日 13:30 ~15:40	1、今年度活動方針（各部会方針も含め） 2、著作権等管理事業法施行 3 年目の見直しにむけて	セミナー 著作権情報データベース開発状況報告
6月10日 13:30 ~14:40	1、NMRC「携帯・映像 WG」進捗状況報告 2、DMN WG の報告（問題点整理～JASRAC 訪問） 3、ソフト規格部会に GCP WG 発足	
7月14日 13:30 ~16:00	1、著作権等管理事業法に対するパブリックコメント準備 2、着メロ 45 “ 超のストリーム配信についての JASRAC との協議報告 3、音事協・音制連との合意見込み	セミナー JASRAC”インターネットや携帯電話「利用の手引き」Ver7 解説
9月9日 13:30 ~15:50	1、着メロでのメドレー利用に関する E ライセンスからの回答報告 2、「著作権等管理事業法の施行状況等に関する意見募集」（文化庁）への対応検討協議	8 月「著作権法改正要望」 9 月「著作権等管理事業法の施行状況に関する意見」
10月7日 13:30 ~15:10	1、「著作権等管理事業法の施行状況等に関する意見募集」（文化庁）提出報告 2、故障による携帯電話の機種交換に関するコンテンツの保障に関する J A S R A C との合意報告 3、ストリームに於ける按分に伴う J A S R A C よりの返金に関しての報告	
11月11日 13:30 ~14:40	1、K D D I リングバックトーン開始に伴うストリームの按分問題発生についての報告 2、J A S R C 検索ロボットへの M I D I 透かしデコーダ搭載進捗状況 3、DMN WG、J A S R A C 回答報告 4、ダイキサウンド規程変更（一任型へ）報告	セミナー 4 年目の音楽ポータルサイト
12月9日 15:30 ~16:30	1、J A S R A C からのインタラクティブ配信に関する「使用料規程の改定に伴う協議の申し入れ」報告 2、カラオケ配信事業者のデータ盗難・配信事件報告 3、G C P WG 報告（課題整理） 4、ストリーム按分に関する各社との進捗状況報告 5、M I D I 透かし、J A S R A C との協議状況報告	忘年懇親会（参加 70 名）
1月13日 13:30 ~14:30	1、著作権等管理事業法に関しての今後の対応 ・文化庁に対しての活動を活発化させること ・包括契約問題は引き続き「契約小委員会」のテーマとなる。 2、J A S R A C との使用料一部改訂「着信音専用データ」規程制定協議報告 3、J A S R A C との実務者 WG 設置の報告 4、カラオケ部会、J A S R A C 訪問報告	1 月 20 日 K M P A 高麗音楽出版協会会長との交流会（S Y D ホール）
2月10日 13:30~	1、韓国関連情報及び今後（K M P A 会長交流会を踏まえて） 2、視聴の考え方について 3、カラオケ部会、透かし p j , ソフト規格部会報告	
3月10日 13:30~	1、ドラマのインターネット配信における料率の暫定合意 2、韓国楽曲クリアリングシステム案報告 3、インタラクティブ配信におけるストリーム按分の方式に関して意見交換 4、その他	

(4) 透かし推進プロジェクト

計7回の会議を開催し、AMEIの標準MIDI透かしの普及促進を進めた。技術WGはユーザーの対応、運営ワーキングWGはデコードサーバーの保守を中心に、普及展開WGは規格書の改良に加えてJASRACとの連携を提案するなど、積極的に活動した。現在、ライセンス契約は累計9社である。

又、海外への展開を目指して規格書、利用説明書の英訳に着手した。

(5) デジタル・レコーディング委員会・デジタルコンテンツ委員会

両委員会のテーマをあわせて会議を9回開催した。

DVDや各種デジタル放送等、サラウンド環境の普及と関連付けて5.1ch視聴会を企画し、機材、設定、効果等の様々な視点で講師を招いて始めての実験的視聴会を開催し約30名の会員の参加をえた。

(6) MIDI検定委員会

検定委員会を3回開催、第7回目の3級、第6回目の2級試験を実施した。結果として7年目にして、累計受験者は2万人をオーバーした。

今後の課題は、更なる受験者拡大化への布石である。

又、2年前から準備してきた、中国の5都市で始めての海外MIDI検定試験が国内と同一日に実施された記念すべき年となった。今後の海外での導入の引き金にしたい。

MIDI検定試験結果の推移

級	内容	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	累計
3級	実施日	第1回 H11.1.17	第2回 H12.1.23	第3回 H13.1.28	第4回 H13.12.16	第5回 H14.12.8	第6回 H15.12.7	第7回 H16.12.5	
	受験者数	2,964	2,737	2,145	2,009	1,871	1,965	1,742	15,433
	(内学校)	1,275	1,591	866	1,040	904	968	917	7,561
	合格者数	2,413	1,543	1,536	1,411	1,342	1,460	1,233	10,938
	合格率	81.4%	56.4%	71.6%	70.2%	71.7%	74.3%	70.8%	70.9%
2級 1次	実施日		第1回 H12.5.28	第2回 H13.1.13	第3回 H13.12.16	第4回 H14.12.8	第5回 H15.12.7	第6回 H16.12.5	
	受験者数		979	594	587	391	470	404	3,425
	合格者数		350	240	290	228	292	108	1,508
	合格率		35.8%	40.4%	49.4%	58.3%	62.1%	26.7%	44.0%
2級 2次	実施日		第1回 H12.7.11	第2回 H13.3.13	第3回 H14.2.09	第4回 H15.2.08	第5回 H16.2.14	第6回 H17.2.11	
	受験者数		328	295	404	391	387	234	2,039
	合格者数		127	64	21	171	37	97	517
	合格率		38.7%	21.7%	5.2%	43.7%	9.6%	41.4%	25.3%
受験者計		2,964	4,044	3,034	3,000	2,653	2,822	2,380	20,897

(7) 事業委員会

全体会議を 1 回、幹事会を 2 回、部会を 1 回開催した。

5 月に開催された N I M E 0 4 への参加を検討したが、結果として実現に至らなかった。又、検討内容としては、デジタルコンテンツ推進委員会との共同イベントや広報活動のサポート等を検討するも実現には至らなかった。

(8) 広報委員会

会報 AMEI News Vol. 23, 24, 25 を、4、7、12 月の 3 回発行した。また AMEI ホームページにて公開した。

当社団の現状に合わせて、入会案内パンフレットを更新した。

以上の全委員会の諸活動を合わせて年間を通じ約 120 回もの会議が開催された。